

齊藤龍吉七十四歳

竹内
介

登場人物

江崎(えざき) 48歳 アポロクリーンサービスのベテラン社員。最近母親を亡くした。

葛西(かさい) 36歳 アポロクリーンサービスの社員。服飾雑貨のブランドに詳しい。

佐野(さの) 30歳 アポロクリーンサービスの社員。電気工事士の資格を持つ。

城戸(きど) 27歳 アポロクリーンサービスの新入社員。

アスパラ 28歳 お笑い芸人。食べていけないので頻繁にアポロクリーンサービスでバイトしている。

斉藤あけみ(さいとうあけみ) 34歳 斉藤龍吉の娘。龍吉が亡くなったと知って、久しぶりに生家を訪れる。

焼け焦げた木片が散らばっている部屋に、江崎が一人座っている。火事の焼け跡であるが、そこまで激しくは焼けていない。江崎の前にはスズで汚れたちゃぶ台がある。

江崎は持っている紙袋から酒と花を取り出すと、部屋のすみに供える。そして酒瓶をちゃぶ台に置いてグラスに二杯酒を注ぎ、一つを花の横に、もう一つを手にして軽く口をつける。

江崎はさらにカバンから書類を出すボールペンを持ちだして書き始めるが、すぐにその手は止まる。

葛西とアスパラが現われる。二人は清掃業者のユニフォームを着ている。

葛西 お父さん！また飲んでるの？

アパ 医者に言われてんだろ？飲みすぎるなって

江崎 いいんだよ

葛西 よくないわよ。体には気をつけてっていつも言ってるじゃない

江崎 金が目当てか？

葛西 何言ってるのよ。私達はお父さんの体を心配して…

江崎 ろくに連絡もしてこないくせに、よく言うな。用がないなら帰れ

アパ 用って…俺は親父と話をしにきたんだよ

江崎 金がほしいんだろ！俺はお前らにやる金なんか持ってねえぞ

葛西 お父さん！いい加減にしてよ！しばらく会ってなくっても、私達は家族でしょ！

江崎 …

アパ いいよ。おい、帰るぞ

葛西 なんでよ？…お兄ちゃん、まさか本当にお金が目当てで来たの？

城戸 江崎さん！この…

城戸が段ボール箱を抱えて部屋に入ってくる。しかし状況の意味が分からず凍りつく。

アパ 金くらいしかこの親父に価値なんてないだろ？お前はこの家がほしいのか？ま、それならせいぜいこの人でなしの面倒を見るんだな！

葛西 最低！もう二度と会わないで！お父さんを傷つけないで

アパ こっちから願い下げだ！でもな、この家の半分は俺のもんだ。そのぶんは、ちゃんと現金で渡せよ

葛西 帰って！もう来ないで！

江崎 義弘…

アパ なんだよ

江崎 わしは…お前に、そんなひどいことをしたのか…何があっても家族だと…だからわしはお前に…いや…お前はわしに…うーん。ごめん、違うな、こうじゃない

江崎は突然素に戻る。アスパラと葛西も緊張を解き、休憩する。

城戸 あの…

アパ 城戸さん…ダメですよ…

城戸 (よくわからずに)すみません

江崎 しんみりしすぎかな…子供たちが家から出てって、親父は悲しかったのかな？葛西は、どう思う？

葛西 家に引きこもるよりは、出て行ったほうが健全ですけどね

江崎 一人立ちだよな…でも…息子は親父を恨んでる…

葛西 家庭内暴力とかあったんですかね？

江崎 …頭がおかしい、って息子は言ってたよな？

城戸 は、はい！

葛西 息子さんの逆恨みって線も

江崎 どうした、城戸？

城戸 本棚の下の引き出しから色々と出てきて…メモ書きとか、表紙のない文庫本とか…どう整理しましょう？

江崎 水には濡れてない？

城戸 はい

江崎 じゃあ、俺がやるわ。おいという

城戸 お願いします。あの、今、何やってらしたんですか？

葛西 亡くなったお爺ちゃんがどんな人だったか、想像してたの。私達、勝手に触らせてもらってるんだから、せめて思っただけであげないとしてアパ 調子に乗ってきたら、判断に困る物を、江崎さんがバツバツサ処理してくれるんですよ。まるで亡くなった人が乗り移ったみたいにな

佐野 儀式？

佐野が段ボール箱を抱えて入ってくる。

葛西 うん

佐野 またやってんですか？自己満足。江崎さん、アルバムです。テレビの下に入っていました

江崎 確認するわ。おいという

佐野 はい。電化製品、とりあえず全部動きますけど、値段のつくものは…これは動くかな

佐野は部屋のすみにあったラジカセを調べる。

江崎 ごくろうさん

佐野 (ラジカセを調べながら)お風呂の前の部屋のクーラー、一番綺麗ですけど外しときます？

江崎 クーラーはな…金になるかわかんないけど。ま、いちおう外しという

佐野 はい。思い出の確認より、電化製品のほうが重要でしょ。ちよつとは会社に貢献することも考えないと、出世できませんよ

江崎 …貢献、か…わしはお前の人生に何か貢献できた…いや、堅苦しいな。近所付き合ひもない、息子とも疎遠、一人暮らしのたつじい…

佐野 だめだ、こりゃ

江崎 何かが違うんだ。何か勘違いしてる。そんな、寂しい部屋じゃないんだ、ここは。たつじいはここで…佐野、タバコ

佐野 はい

城戸 タバコ？

佐野はココアシガレットを江崎に差し出す。

江崎はそれを本物のタバコのように吸う。

佐野もココアシガレットをかじる。

江崎 たつじいはこの部屋でタバコを吸っていた。もちろん本物のな。そして酒をしこたまのんで、寝て、タバコの火が燃え広がって、そのまま亡くなった…

佐野 そのあたりですかね？寝てたの

城戸 え？（身を震わせる）

江崎 そうかもな。火は早くに消し止められたけど、一酸化炭素中毒ってやつかな。煙にまかれたんだ。最後の瞬間、目を覚ましたのか、寝たまままだったのか…どっちだ、たつじい？

佐野 （ラジカセ）これ、熱でやられてますね。カセットも溶けてるな…。捨てます？

江崎 いや、おいといて

佐野 はい。全焼したら、楽だったのに…じゃ、クーラー外してきます（出ていく）

江崎 …あいつはほんとにバチ当たりだな。お前らも仕事しろよ

葛西 江崎さんに付き合ってたんでしょ

アパ 次どこいきます？服やります？

葛西 そうね

江崎 城戸はここに残れ。指導を任されてるんだ

城戸 わかりました

アパ 江崎さんは始末書ですか？

江崎 ああ。見つかったとはいえ、一時はなくしてしまっただ。俺の管理不足でお客様に不信感を与えてしまいましたって書くよ
アパ でも不思議ですよ、金庫にちゃんと入れてたのに…

アスパラは部屋を出て行く。

江崎 葛西、今度は何もなくなすなよ

葛西 (真剣な顔になって) わかってます(部屋を出る)

江崎 こないだの現場でな、見つかったはずの通帳が親族に渡すときになかったんだ。リストに通帳ってあるのに、ないじゃねえかって呼び出されて怒鳴りつけられて…。もう一度ダメもとで現場に戻ったら葛西が見つけてくれて助かったんだけど…なんと残高百五円

城戸 ああ…

江崎 金額が金額だから親族もそれ以上何も言わなくなったけど…冷や冷やもんだったよ

城戸 …気を付けます

江崎 座れ

江崎は城戸に向かって床を指さすが、焼け焦げた床が広がるのみ。城戸は躊躇する。江崎は始末書を書きながら城戸と話す。

江崎 慣れるよ。山田のチームで研修受けたんだって？

城戸 はい

江崎 あいつは真面目だからな。俺と全然違うだろ

城戸 (困惑する)…まだなんとも…

江崎 正直に言えよ。研修は楽な現場でやるんだ。やめられたら困るからな。これから先、特殊清掃にも付き合ってもらおうぞ。床にできた人形

(ひとがた)のシミ。鼻をつくえげつない匂い。ここなんか炭のいい香りじゃないか。座れつて。痛みに慣れるんだ

城戸 はい…(座る)

江崎 この仕事、どう思う？

城戸 素敵な仕事だと思います

江崎 本心か？

城戸 はい(笑顔)

江崎 無理するなよ。これ(アルバム)、適当に見て

城戸 はい

江崎 想像するんだ。たつじいがどんな人間だったか

城戸 はい…(熱心にアルバムを見る)

江崎 たつじいがどれだかわかるか？

城戸 え？(考えて)この人ですか…

江崎 バカ。こいつはたつじいの親だ

城戸 私、会ったことないですから

江崎 俺も会ったことないわ。斎藤龍吉(たつきち)、七十四歳だぞ。長男は四十歳。そんな白黒写真で息子抱えて笑顔なわけないだろ。これは小

さい時のたつじいと親の写真だ。たぶん

城戸 なるほど

江崎 お前、ちゃんとした大学行ってたらしいな

城戸 やめてください

江崎 うちが高卒が多いから噂になってるぞ。大変だな、学歴があるつてのも

城戸 …中退ですから

江崎 それも聞いた…なんか、バカなことやったのか

城戸 …

江崎 俺はたつじいのことも知りたいけど、一緒に仕事する仲間のことも知りたい。佐野の奴は自己満足って言うけどさ、知ったら、何かできるかもしれないじゃないか

城戸 …

江崎 気にするな。うちの会社はわけありの奴が多い。社長のポリシーなんだよ。信じてあげるだけで変わる奴がいる。そして、そういう奴は裏切らないって

江崎 俺はお前を信じる。でも心配なんだよ。きっと、いい給料もらって、綺麗なオフィスで働いてる同級生がいるだろ…それを見たときに辛くなつてやめちまわないかって

城戸 詐欺をやったんです

江崎 …

城戸 いいバイトがあるって友達に紹介されたんです…訪問販売の…。龍吉さんみたいな一人暮らしのお爺ちゃんの家に行って…仲良くなつて物を買わせる…

江崎 …

城戸 買わせた商品、確かに高かったけどそんな捕まるなんて…警察でも、うすうすわかってたんだろって言われたんですけど…おじいちゃん、私と話してたら嬉しそうだったし…

江崎 世の中にはな、色んな人間の気持ちを踏みにじってでも儲けたい、ひどい奴がいるんだよ…それでも信じることをやめちゃいけない

城戸 私は…大丈夫です

江崎 …信じるよ。この仕事、できる限り続けてくれよ

城戸 もちろんです…

江崎は始末書を書こうとするが、書けない。

江崎 城戸はさ、たつじいとあの息子、仲直りできると思うか？

城戸 はい。だってそれが一番ですもん

江崎 …お前は、そのアルバム、どうなると思う？

城戸 息子さんにお渡しするんですよね？

江崎 それから？

城戸 どこかにしまわれて

江崎 打ち合わせで会っただろ？あの息子を見てそう思えるか？

城戸 アルバムくらい

江崎 あの息子は、面倒だから俺らに押し付けたんだ。とおの昔に縁を切った親父がガラクタ貯め込んで死んだんだからな

城戸 ガラクタだなんて

江崎 あの息子にとってはガラクタなんだよ。どうやってたらかこのアルバムが、あの息子にとって宝物になるか…そして、もし捨てられるだけなんだとしたら、最後にせめて俺たちが見てやらないと…

江崎はアルバムを開いて思いをはせる。城戸はその姿を見て一つ頷き、アルバムを優しい目で見始める。
アスパラと葛西が入ってくる。再び小芝居を始める。

葛西 お父さん、何よこれ！お母さんの服こんなにしまいこんで？どうすんのよ

江崎 ああ…

葛西 お母さんが死んで何年たつと思ってんの？もう片付けてもいいんじゃない？

アパ どうせ売りに行っても値段つかないしさ、寄付に回す？

江崎 そうだな。わしの服もいらんよ。全部捨ててしまおう

アパ じゃあ明日からの服着るんだよ

江崎 ああ…そうか…全部捨ててしまったら…ごめん、だめだな、今日は

アパ もう…

江崎 …

葛西 アスパラ、何か面白い事いって江崎さん喜ばせなさいよ

アパ はい、今日も緑のアスパラさんですよー

江崎 ……

アパ (黒い女性物の服をあてて) かつば巻き

江崎 ……

アパ (橙色の女性物の服をあてて) アスパラベーコン

江崎 ……

アパ (寝転がって) サラダ!

佐野が入ってくる。アスパラを無視して話し始める。

佐野 クーラー、外しときました。カイワレ、あと梱包しといて

アパ アスパラだよ!

佐野 (無視して) それにしても仏さん、毎日同じ場所を歩いてたんでしょね。生活感のある部屋と、何年も入った形跡のない部屋…

江崎 そりゃ、一軒家にじいさん一人だからな…とりあえず、売れる服以外は処分だ。ブランド物の確認、今日も頼むぞ

葛西 はい。江崎さん、早く元気になってください

江崎 ああ

葛西 ブロッコリー、手伝って

アパ アスパラだよ!

葛西 そこまでは面白いんだけどね…

アパ どういう意味だよ!

葛西とアスパラは出ていく。

佐野 休憩入ります

江崎 おう

佐野は座ってコシアシガレットをかじりながら缶コーヒーをあける。

城戸はアルバムを見ている。

城戸 あ、この写真、この部屋だ

江崎 確かに、こっちから撮ってるな

城戸 ここ、取り壊すんですね？こんなに思い出が詰まってるのに…

江崎 わしが死んだらこの家も壊してくれ…もう誰も…いや、違うな…

城戸 …

佐野 江崎さん

江崎 ん？

佐野 やっぱりそれ、失礼っすよ。仏さんに

江崎 そうかな

佐野 はい。仏さんは仏さん。江崎さんは江崎さん。江崎さんが仏さんになることはできない

江崎 …お前とはいつもこの話だな

佐野 だってそう思いますもん

江崎 でも今日はいつもよりこたえるわ…

城戸 …

江崎 佐野は、この仕事好きか？

佐野 それも同じ。仕事は仕事。好きも嫌いも、ありません

江崎　ぶれないねえ、お前

佐野　本心ですから

江崎　じゃあさ、俺はこの仕事してますって堂々と言えるか？

佐野　新しい展開ですネ

江崎　どうだ？胸張って言えるか？

佐野　誰に言うんですか

江崎　そりゃお前：友達とか：彼女とか

佐野　仕事してる、でいいでしょ

江崎　城戸はどうだ？

城戸　：私は、ちゃんと、親に言いました

江崎　（慌てて）ああ：

佐野　：

城戸　：まっとうな会社だよって

江崎　ああ：

城戸　：もう二度とバカなことほしないって

江崎　：

城戸　うちの会社、ホームページいいですよ！天国へのお引越サービスって

江崎　そんなキャッチフレーズなの？

佐野　知らないんですか

城戸　親も、ホームページ見てようやく安心したみたいで：うちの社長の言葉とか載ってるじゃないですか、いわゆる社会貢献、みたいな：

江崎　ああ：

佐野　お金さえかければホームページなんていくらでも作れるのにねえ：

江崎　変な会社はそれすらやらねえんだよ。他には何も言われなかった？

城戸 食べていけるのかって聞かれましたけど…手当とかちゃんと出るって…そこらへんは適当に

江崎 特別手当が出るのは…えぐい現場の時だけだぞ

佐野 俺、こないだ首吊りのロープ外しましたけど出ませんでしたよ

江崎 それくらいじゃ無理だ。せめて風呂で腐った死体のカスをだな…こう髪の毛とか脂肪とかでドボドボになった風呂の水を

江崎は身振りを交えようとするが、城戸の様子を見てやめる。

城戸 …

江崎 それで佐野、首吊りのロープ外したって彼女に言えるか？

佐野 聞いてきたら言いますよ

江崎 聞いてこないだろ

佐野 でしょうね。江崎さん、お母さんのこと、考えてるんでしょう？

江崎 …

佐野 もしかして、言ってなかったんですか？

江崎 いや、言っていないとか…まあ…俺なんか、ちゃんと働いてるだけで奇跡だからさ。おふくろは安心してたんだよ、きつと…きつとな…あー、やめやめ

佐野 はい

城戸 （江崎を見る）

佐野 …

城戸 江崎さん…

江崎 …

城戸 死体も運ぶんですか？

江崎と佐野は拍子抜けする。

江崎　そこかよ

佐野　そこなんだ

江崎　言葉には気をつけろよ。死体じゃなくて、ご遺体。ご遺体は警察が運ぶから俺たちが見ることはない。だいたいうちは、遺品整理をうたってるんだ。えげつない現場なら特殊清掃中心の会社に頼むだろう。山田はなにも言ってなかったか？

城戸　はい

江崎　そうか…

城戸　私も、早くそういう現場に行きたいです

江崎　ドボドボの風呂か？

城戸　はい。じゃないと、慣れないんで

江崎　慣れ、なあ…。さっきは慣れろって言ったけど、慣れるってのは、辛くなるってことじゃないからな

城戸　…どういことですか？

江崎　慣れるのは、痛みに慣れるんだ。ひざをすりむいて泣いてたガキが、大人になれば骨折したって泣かなくなる、みたいに…。この部屋でたつじいは暮らしてた、腐って死んだ奴もそれまでは生きていた。それをただの物みたいにあつかって、大丈夫、平気、そんなのダメだ。全部人なんだよ、生きてた人なんだ

城戸　山田さんには、何を見ても人を考えるな。入り込んだら辛くなるぞ、って言われました

佐野　正解

江崎　俺は嫌なんだよ。モノだとは思いたくない…

佐野　それは結局希望なんですよ、江崎さんの。特別な仕事をしてると思いたいっていう

江崎　そんなじゃねえよ

佐野　そうですよ。儀式も、他の人とは違うことをしてるって思いたい希望

江崎　…

佐野 俺達の仕事は、特別かもしれませんが、それはただ、人がやりたがらないっていう意味での特別。遺品整理っていう汚い仕事

江崎 汚い仕事ってなんだよ！俺達の仕事は！汚いこともするけど…

佐野 でも、それは人として健全だと思います

江崎 ？

佐野 自分の仕事に誇りを持つとうとするのは

佐野は立ち上がるとゴミ袋に空き缶を捨てる。

佐野 台所見てきますね

江崎 …おう

城戸は気まずい空気から逃れるため、アルバムを見ている。江崎はそれに気づく。

江崎 …城戸、佐野の奴…親の顔を知らないんだ。小さい時に捨てられて、施設で育てられたって…だからちょっと気にしてやってくれ

城戸 あ…すみません…わかりました…

アスパラが飛び込んでくる。

アパ アスパラボウボウ、アスパラ農場！

江崎 なんだよ、脅かすな

アパ すみません。城戸さんにも来てもらっていいですか？服が多くて。奥さんの服かどうか分からないのまであって

江崎 おう。それ(アルバム)、そのままにしよう

城戸 はい。江崎さん…私は、この仕事、精一杯やりたいです

江崎　：

城戸　精一杯やったら、江崎さんの言う、特別な仕事になると思います！龍吉さんと遺されたご家族をきつちりつなぎましょう！

アパ　でもね、城戸さん。本当にひどい家族もあるんです。写真は別にいりません、思い出なんかありません。とにかく全部捨てて下さい。でも、通帳だけは見つけて下さいね。隠し口座があるかもしれない。生命保険だって…

城戸　：

アパ　こないだの仕事です。ねえ？

江崎　ああ

アパ　最後は報告書にあった通帳がなくなっちゃったってすごい騒ぎ。そりゃ僕達も悪いんですけど、必死なんですよ…最後、残金百五円の通帳を渡したら…なんともいえない顔して…ああ、金目のものを見つけるためだけに僕達呼んだんだなって

城戸　：

アパ　僕たちにできるのは、人生のエンドロールをちよこつといい感じにするくらいなのかな…

葛西が毛皮のコートを持ってくる。

葛西　お父さん！これ、お母さんのコート！●●でしょ？私もらってもいい？

江崎　ああ…好きにしろ。このお嬢さんにも、何か持たせてやってくれ

葛西　はい！じゃあ、こっち来て！化粧品は何使ってる？●●とか▲とか、新品もあるわよ！

城戸　：葛西さんは、私たちに何ができると思いますか

葛西　もう、今は私、葛西じゃなくて、あけみなの！達吉さんの娘！

江崎　俺も聞かせてくれ

葛西　え

アパ　なんか今日、ずっとこんな空気

葛西　：江崎さん、お葬式行かれてからおかしいですよ…そりゃ悲しいのは当然ですけど…

江崎 …俺の中に迷いがあるんだよ。だから龍吉さんの気持ちも見えてこない…

葛西 …どんな迷いですか

江崎 …俺は、なんのために生きているのかどう生きるべきなのか…葛西は、迷うことないのか

葛西 …私は不器用なんです…そういうのやめました。思うがままやるしかないって…もちろん、むかついたから殴るとかもうしませんけど…私は、

江崎 …さんなりに精一杯やるしかないと思います

江崎 …俺なりの精一杯な…ごめん、服大変なんだろ、みんなでかかってくれ

葛西は城戸、アスパラとともに部屋を出ていく。

江崎はコップ酒を机に叩きつける。

江崎 …あー！

叫ぶと江崎はごろんと横になる。が、すぐに落ちていて紙の分別にもどる。さきほどよりは少し雑になったように見える。

江崎は不意に涙ぐみ、手が止まる。そして再び紙の整理作業を始める。また丁寧な作業に戻っている。

佐野が入ってくる。

佐野 …なに叫んでるんですか。台所もガラクタばかり。でも見つけましたよ、通帳。冷凍庫の製氷機の裏に入っていました。あれは俺達じゃない

と見つけられないですね

江崎 …おう、ありがとう。金庫に入れとくわ

佐野は江崎に通帳を手渡す。

佐野 …はい。なかみ、あまりないですけど、今日の代金くらいにはなるんじゃないですか

江崎 あの子が見つけてほしかったのは、本当に金だけなのかな…

佐野 親を嫌いになるわけない、ですか？

江崎 俺はそう信じた

佐野 親が子供を捨てることもあるんです。逆はもつとあるでしょ

江崎 …

佐野 親のこと、気を使わないで下さいね。気を使われたほうが嫌なんです。龍吉さんといっしょです

江崎 龍吉さんがどう思ってるか、お前もわからないだろ

佐野 まあ。俺は嫌なんです。勝手に悲しい人間みたいに想像されるの

江崎 でもな…嫁さんはとうの昔に死んじゃって、家に一人。息子も娘も訪ねて来ない。近所付き合ひもない。寂しいと思うんだよ…本当に寂しかったと思うんだ…

佐野 …

江崎 年金だけのその日暮らしでさ。いいことなんてなんもなく、趣味は読書くらい。古本屋で百円で売ってる単行本。表紙のない小説…気に入った個所があれば紙に写す…でも読んでくれる人はいない。黙って捨てるだけ…

佐野 老後なんて、みんなそんなもんじゃないんですか

江崎 …なあ

佐野 なんですか？

江崎 愚痴、言ってもいいか？

佐野 ご自由に

江崎 …

佐野 お母さんの話でしょ？いいですよ、気を使わないで下さいって言うてるでしょ？

江崎 …母親の葬式でさ。親戚がみんな集まってるわけよ。俺、親戚からハブられて…じつと無言でみんなの自慢話聞いてたんだ。兄貴はすごい出世しててさ。でも、なんとも思わなかった。俺は遺品整理のプロだ。母親は一人で住んでたからさ。掃除、片付け、ようやく恩返しできるなって…

佐野 ：

江崎 でもな、その話になったときに兄貴が言ったんだ。俺達がちよつとずつやるから、お前は東京帰っていいぞって。兄貴は母親の近くに住んでたんだ。しょっちゅう家に寄ってるから、どこになにがあるかもある程度わかるって：兄貴はな、俺に気をつかつて母親の体調のことも知らせなかった。本当によくできた人だよ：

佐野 ：

江崎 でもな：俺だって：親孝行をしたかったわけよ。できは悪かったよ。さんざん悪いこともしたよ。でも、母ちゃんが俺を信じてくれてたら、立ち直れたんだよ。なのにな、何も返せないんだよ、仕送りするような余裕はない、兄貴みたいに孫の顔も見せてない、そして：そばにもいなかった。母ちゃんが何を思ってたか、欲しがってたか、会ってなけりゃわかるわけがないんだ：

佐野 江崎さん？もしかして酔ってます？

江崎 酔ってないよ。酔ってない：でも、会って話すっていう一番大事なことをおろそかにしてた自分がさ、嫌になったんだよ。こんなことわかってたのに：この物にこめられた思いは、この本には何が、このメモはどうして書いたのか、この封筒は？どれだけ想像力を働かせても、もう話すことはできないんだ：生きていたときの一言には勝てない：

段ボールの中から出てきた封筒を見て、江崎は息をのむ。

封の閉じていない封筒の中身を取り出すと江崎は目を走らせる。

突然動きを止めた江崎を無視して佐野は部屋を出ていこうとする。

佐野 ー：終わりました？

江崎 ー：

佐野 台所に戻りますね

江崎 ー：

佐野 ー：江崎さん！

江崎 ー：

佐野 (封筒を見て) 遺書？

江崎 シー！

佐野 どうしたんですか？

江崎は少し考えるが、遺書の本文だけ佐野に見せる。

佐野 …一億円！

江崎 シー！

佐野 ここに書いてる宝くじって？

江崎 ある(封筒を指差す)

佐野 よかったですね。私達がいなかったらそのままゴミ箱いきだ

江崎 ちがう！ここ！

佐野 次女のよしみにすべて与える…？どうかしたんですか？

江崎 これ、あの息子が書いた申し込み用紙！

佐野は用紙に目を走らせる。

佐野 名前がないですね

江崎 そうなんだよ、二人兄弟じゃなく、三人だったんだ…あの息子、隠してたのか知らなかったのか…

佐野 どうするんです？

江崎 どうもこうも…

アパ (部屋の外から) 父さん！

江崎 今は黙っててくれ。誰にも言うなよ

佐野 はい

佐野は部屋を出ていく。江崎は慌てて封筒をポケットに入れる。アスパラが入ってくる。

アパ 父さん！なんなの、この服！

アスパラの後ろから葛西が学生服を着て現われる。葛西はなぜか嬉しそう。

葛西 お父さん！お母さんにコスプレさせてたの！お父さんもすみにおけないわね

江崎 …

アパ どうする？こういうのは処分したほうがいいの？他の人に見られたら恥ずかしいだろ

江崎 …

アパ (通帳を見て) おっ！通帳じゃん(とあり上げて) まー、こんなもんか。これ、貰って行くよ

江崎 …そんな端金(はしたがね)が欲しいなら、くれてやるよ

アパ 父さん？

葛西 いいの？

江崎 あ…いや、ごめん。違う。そんなわけないな…

葛西 もう！江崎さん！城戸にも着せましょうか？看護師、スッチー、色々ありますけど

江崎 …

葛西はアスパラに視線を送ると首を振って部屋を出ていく。

アパ 江崎さん…面白くないですか、お爺ちゃんの部屋から制服が出てくるんですよ

江崎 …面白ってなんなのかな…

アパ え、この、プロの芸人にそんなこと聞きます？江崎さん、そんな話僕が始めたら一晩じゃ終わりませんよ

江崎 いいから一言で言ってくれ

アパ いや、え…そんな…

江崎 ほら

アパ なんですかそれ…えーっと…一言で言うなら…自分が面白いと思うものが面白い！伝わるか伝わらないかは別問題！だって自分が面白いと思わないものは面白くないじゃないですか！

江崎 そうか、ありがとう

アパ え…それは、オツケーって意味？もしくは、大外れって意味？

江崎 早く仕事に戻れ

アパ 何それ、江崎さん…この展開も、ちょっと面白い

アスパラは部屋から出ようとする。

江崎 おい、通帳返せよ。持ってきな

アパ 軽いボケですよ！なくしたら、また江崎さん始末書かなあきませんもんね

江崎は通帳を携帯金庫の中に入れる。

葛西 お父さーん！

葛西が嫌がる城戸を連れて現われる。城戸も新しく服を着せられてる。

葛西 どう、元気でできた？今日は二人よ

江崎 誰だよ、そいつは

葛西 何言ってるのよ、妹のキドミじゃない

江崎 (慌てて)お、俺には娘は二人いないぞ！お、お前らも知ってるだろ！

葛西 うそ…お父さん、キドミを忘れちゃったの

葛西は城戸を睨む。

城戸 (極めて下手に)エーン、エーン、お父さん、キドミのこと忘れちゃったの？

江崎 いや…ああ…覚えてるよ。ただ、お前は…なあ。もう、よそ様の家の子だ

城戸 …私は、お父さんの娘だよ

アパ (息子になって)ちようちよう、親父。どういうこと？こんな奴娘だなんて言い出したら、俺の取り分が少なくなるだろ

葛西 お兄ちゃん、何言うの！キドミだって私たちの兄弟よ！

アパ 知らねえよ！養子に出した女だろ？その親父の都合でさ！

葛西 ひどすぎるわお兄ちゃん！それはキドミには関係ないでしょ！

奇妙な盛り上がりを見せる葛西とアスパラと城戸。

佐野 お客さん来ましたよ

佐野が現われて声をかけるが誰も気づかない。

佐野 お客様です。ここに来ますよ

江崎は気づくが、三人は盛り上がったまま。

江崎 誰だよ？勝手に入れるなよ

佐野 龍吉さんの娘さんだそうです

江崎 お前ら！ちよつとやめろ、やめろ！

アパ 何がやめろだ？全部お前が悪いんだろ！

城戸 お兄ちゃんやめて！

葛西 お父さんちゃんと言ってよ！私達兄弟、本当は仲良くしたいのよ！

江崎 違うって！

あけみが入ってくる。

あけ お世話になってます…？

凍りついた葛西達三人は一礼すると部屋を飛び出していく。

江崎 ああ…服が破れていないかどうか、ああやって着て確かめてるんです。決して遊んでいるわけじゃありません

江崎はあけみの目につかないように始末書のカバンにしまう。

あけ あ…ありがとうございます

江崎 この度はアポロクリーンサービスを御利用下さいましてありがとうございます

あけ いえ…兄が勝手に頼んだ事ですから

江崎 よしみさんでいらっしゃいますか？

あけ あけみです

江崎 ああ…長女の

あけ はい。娘は私一人です

江崎 あー、すみません、勘違いです…

あけ ここで父は亡くなったんですね

江崎 はい

あけ お花は…？

江崎 (頷く)

あけ ありがとうございます。灰皿だ…まだタバコの匂いがするみたい…

あけみは持ってきた花を供えると手をあわせる。

あけ 最後までバカな父でした。火には気をつけて、って言ったのに。ご近所に燃え広がらなかっただけ、まだよかったのかな…

江崎 …

あけ すみません。私がやればいいのに…事情がありまして

江崎 いえ、なかなか大変ですよ。御遺族のかたは、一つ一つに思い入れがあるでしょうから時間がかかりますし。ここなんか天井がありませんから急いでやらないと

あけ どれくらいかかりそうですか

江崎 大人数でかかっていますから、今日中にはおおかた終わると思います。貴重品と思われるものは最後に確認して頂きますが…今のところ貴重品と思われるものは通帳が一冊あるだけです。こちらはお兄様にお渡ししておきます

あけ ええ…ああ、私が来たことは秘密にしておいて下さい。知ったら、きっと兄は怒りますから

江崎 そうなんですか

あけ はい

江崎 …

あけみは部屋をぐるりと見渡す。

あけ なんか知らない家みたいです。久しぶりだから

江崎 中学生くらいまではこちらで過ごしたんですよね？

あけ はい…高校を出るまでは。どうして…？

江崎 アルバムを拝見しました

江崎はアルバムを差し出す。

あけ …これ、お父さん？若い…

江崎 初めて見るんですか？

あけ 私達が生まれる前の写真なんて…あつたんだ…本当に初めて…どこですかね、ここ？

江崎 なんですよう…劇場みたいですね。人も大勢いて…

あけ 覚えてないな…意外です。あんな父が、お芝居を見に行くだなんて

江崎 厳しいかただった？

あけ 厳しいというか…ダメな人でした。家族に迷惑ばかりかけて。自分が正義、自分が一番。母にもきつく当たってましたが、私が中学生の時に母が亡くなると、さらにひどくなって…兄が嫌うのも、もっともです

江崎 …お兄さんは、ほとんど会話されていなかったそうですね

あけ 兄が言ってたんですか？

江崎 はい

あけ (アルバムを見ながら) 兄も小さい時はたぶん父の事嫌いじゃなかったと思うんです…怖かったですけど、それはどこにでもある話で…いつから話さなくなったんだろう…もともと、最近では、会話できる精神状態じゃありませんでした

江崎 お父さんが？

あけ はい

江崎 …

あけ でも亡くなってしまおうと…一回くらい会っておけばよかったって…ちょっとした後悔があるんです…

江崎 …

葛西が入ってくる。

葛西 すみません

江崎 どうした？

葛西 いえ、さっきの…誤解されていないかと思ひまして

江崎 ああ…服のチェックな。チェックしてたんだよな

葛西 …はい

あけ ああいう服、何に使っていたと思います？

葛西 使っていた？

あけ 父が着ていたんです

葛西と江崎は顔を見合わせる。

江崎 …？

あけ セーラー服や看護師の服を着て、近所や繁華街で散歩

葛西 (なんともいえない表情)

江崎 どうしてそんなことを？

あけ わかるわけじゃないですよ。頭がおかしくなったんでしょう。兄は、私達に対する仕返しだろうって言ってました

葛西 どのあたりが仕返し？

あけ 私達が家を出て行ってから、そういうことをやりはじめたんです。近所の人からも白い目で見られて。中には私達に電話してくる人もいました。お父さん、みんないなくなったからおかしくなったんじゃないかって

葛西 近所の人のそういう反応を見越してやったということですか

あけ だからわかりませんよ。でもそりゃ還暦を超えた男の人がお化粧して散歩して、駅前でわけのわからないことを叫んでたら、噂にもなりま
すよ

葛西もしかして山のようにあった化粧品は…

あけ化粧品？どこにですか？

葛西 ドレッサーの周りに袋に入れて山のように

あけ 知りませんが、おそらく父のでしょう。母は亡くなって二十年たちますから

葛西 使えるものばかりですけど…どう処理すればいいですか？

あけ 捨てて下さい。気持ち悪いから

葛西 わかりました…あ…

葛西は何かを言おうとするが言葉が出てこない。

江崎 いいよ葛西、化粧品処理してこい

葛西 はい！

葛西は、慌てて出ようとするが、供えてあったコップを倒してしまう。

葛西 あ、すみません！

江崎 何やってんだよ

江崎はタオルを渡そうとするが、宝くじの入った封筒が落ちる。遺書という字だけを葛西は確認する。江崎はあけみに見られないように封筒をポケットに直す。

葛西 ……！

江崎 （目で葛西を制する）

葛西は逃げるように部屋を飛び出していく。

江崎 ……

あけ 作業の邪魔はしませんから、家の中を回らせてもらってもよろしいですか？

江崎 もちろんです。お邪魔どころか、作業に立ち会って頂いたほうが、我々としても作業がやりやすいのですが

あけ 私がいてもいいですよ。私、何も知りませんから

江崎 ……はい

あけみは出ていく。江崎は遺書をもう一度見ると、しっかりと内ポケットに直し、作業を再開する。別の部屋。佐野が作業をしているところに葛西が駆け込んでくる。

葛西 佐野！佐野！大変よ！

佐野 何ですか？

葛西 そんな、炊飯器いじくってる場合じゃないわよ！遺書よ！遺書！

佐野 ああ…

葛西 ああ…って、知ってるの？

佐野 まあ。葛西さんには言ったんだ…

葛西 聞いてはないけど、見ちゃったのよ！わかってる？遺書よ！どうして驚かないのよ

佐野 俺も驚きましたけど…関係ありませんから

葛西 関係ないって…あんたね！今日、江崎さんの様子ずっとおかしいと思わなかった？江崎さん、お母さんを溺愛してたのよ！好きで好きで仕方がないお母さんが死んで、もう後を追おうとしてんのよ！ねえ、佐野？どうやったら私止められる？私、江崎さんが死んじゃったら…

佐野 はあ…

葛西 佐野！あんたは江崎さんに恩義を感じてないの？

佐野 えっと…

葛西 関係ないってどういうつもりなの！会社にも関係あることでしょ！これで会社にまで義理がないと言い出したら私も黙っちゃいないわよ！

佐野 めんどくさいから言いますが、江崎さんの遺書じゃありません

葛西 …え？

佐野 龍吉さんの遺書です

葛西 …はあ

佐野 そういうことです

葛西 …じゃ、じゃあなんであんな隠すように！娘さんに渡したらいいじゃない？堂々と！

佐野 ま…色々ありまして

葛西 色々って何？

佐野 …

葛西　もしかして、あんたは知ってるの？え？私だけ仲間外れ？これだけ江崎さんのことを慕ってる私が仲間外れ？それは納得いかないわねー

佐野　葛西さん

葛西　なに？

佐野　めんどくさい

葛西　：

佐野　一億の遺産が見つかったんだけど、あの人達には渡すなって書いてあったんです。以上

葛西　一億？

佐野　俺が言っただけで言わないで下さいよ

葛西　一億…？

佐野　約束ですよ

葛西　渡すな…？

佐野はその場をあとにする。葛西は茫然として出ていく。

再び江崎のいる部屋。

江崎はメモに書かれた言葉を読んでいる。

江崎　人を喜ばせると自分も喜べる…ニーチェ。人間には二種類しかいない。一つは、自分を罪人だと思っている善人であり、一つは、自分を善人だと思っている罪人である…パスカル。五秒以内の反則なら相手を許す。反則を許して、自分から手を広げてやる…アントニオ猪木。（読みにくい）柿（かき）おとし？柿おとしは新たな出発。笑いは心の柿おとし…ジョージ？

江崎は首をかしげる。

城戸が入ってくる。

城戸 江崎さん：

江崎 そっちの部屋、整理ついたか？

城戸 はい：

江崎 どうした？

城戸 ：

江崎 なんだ？言ってみろ

城戸 アスパラさん：さっき、なにか服の中に入れてました

江崎 ：盗んだってことか？

城戸 どうなんでしょう？：お腹のところに隠すみたいに：

江崎 何やってんだよ：わかった。俺があとで聞き出すから、他に何かしないか見といてくれ

城戸 はい

城戸が出て行くと、葛西が入ってくる。

葛西 江崎さん

江崎 なんだ？次から次に

葛西 さっきの遺書：

江崎 ああ：

葛西 一億円、ですか？

江崎 はあ？！

葛西 佐野に聞きました

江崎 ：

葛西 どこにあるんですか？

江崎 (服の内ポケットを指差す)

葛西 貴重品は金庫に入れないと…

江崎 …こないだも、そこに入れてあった通帳がなくなったし…なあ？

葛西 どうするんですか？

江崎 どうするって…そりゃ、渡すよ

葛西 渡すなって書いてあるんですよ？

江崎 あいつ、どこまで言ったんだよ…仕方ないだろ、この家で見つかったんだから

葛西 息子さん、大喜びでしょうね

江崎 だろうな

佐野が入ってくる。

佐野 炊飯器、直りましたよ。休憩入ります。しかし龍吉さん、ご飯も炊かずに何食べてたんでしょうね？すき屋、すき屋、ここいち、すき屋、松屋、吉野家、元禄寿司

佐野はココアシガレットを取り出すが。

葛西 龍吉さんの意志はどうなるんですか！渡したくないから一億円、だまって残してたんでしょう？

佐野は立ち上がって部屋を出て行こうとする。

江崎 佐野…

佐野 気づかれる江崎さんが悪いんですよ

江崎　：

葛西　江崎さん、いつも言ってるじゃないですか！故人の気持ちになって考えろって！

江崎　声が大きい

葛西　：私達しかいないじゃありませんか。一億円、守れるのは：

江崎　無茶言うなよ

佐野　そうですよ。ちゃんとした書類がないんだから依頼主に渡すしかないでしょ？

葛西　せめて娘さんに：

江崎　お兄さんを怖がってるんだ。受け取らないだろう

葛西　：わかりました。じゃあ、せめて金庫に

江崎　：

葛西　鍵貸して下さい

江崎　ああ：

江崎は葛西に鍵を渡し、一挙手一投足を確認しようとするが。

アパ　江崎さん！

江崎はアスパラに気を取られて目を離す。そのすきに葛西は封筒から宝くじを抜き取る。

葛西は金庫に遺書だけを入れて鍵を閉める。

アパ　おお！金庫を触っているということは、また金目の物が見つかりましたね

アスパラの後ろから城戸も続く。

江崎 まあな

アパ もしかして一億円とか

江崎 あ、ああ？！

城戸は葛西のそばに行って金庫をアスパラから遠ざける。

アパ 何驚いてるんですか？軽いジョークですよ

城戸 江崎さん！お腹に入ってます！あと左のポケット！

江崎 アスパラ！手を上げろ！

アパ え、ダメ、ダメ！

江崎 上げろって言うてんだよ！

アスパラが反射的に手をあげるとビデオテープが落ちてくる。

アパ あー！芸人のノリで手をあげてしまったー！割れてない？大丈夫かな？

江崎 なんだそれ？ビデオ？

アパ トップジョージ師匠のビデオです！もー、貴重品なのに…

葛西 トップジョージョ？

アパ 師匠をネズミの人形と一緒にしないで下さい！浅草で一世を風靡したトップジョージ師匠ですよ！

佐野 知らない

アパ まあ、テレビはお嫌いな方でしたから。そんなトップ師匠のビデオがこんなところで見つかるなんて

江崎 左のポケットは？

アスパラはポケットからカセットテープを取り出す。

アパ 師匠のカセットテープです。もう、ビデオのさらに上！激レア品ですよ

江崎 それを盗んで売りさばくつもりだったのか

アパ 盗む！…あ！もしかして城戸さん…僕が盗んだと思って…そんなことするわけないでしょ！

江崎 じゃあなんでコソコソするんだよ

あけみが入ってくる。

アパ あけみさん！私、アスパラさんというしがない芸人なのですが、私の心の師匠、トッポジージョ先生のビデオとカセットテープ、ぜひとも私にお譲り願えないでしょうか！

あけ え？

アパ もちろん、あけみさんが大切にされるとおっしゃるのなら私は泣く泣くこれを手放します。しかし、そうでないのなら一番価値のわかるこの私、アスパラさんに、ぜひとも清き一票を…

あけ …父の遺品にそんなものが？

アパ はい、めちゃくちゃお目が高いお父様です

あけ そんなに価値のあるものなんですか…

佐野 ないと思いますよ。（スマホを見て）師匠のウィキペディア、二行で終わってます。トッポジージョは十、二十…

アパ 世間の評価なんてどうでもいいんです！あけみさん、どうしてもだめならトッポ爆笑ライブ∞だけでも…あと、カセットも…

江崎 隠して持ち運んだの、俺らを出し抜いて先に交渉するためか？

アパ ごめんなさい、じゃあほしい人はジャンケンで！はい、じゃんけん…

もちろん誰も参加しない。

佐野 誰もいないって

あけ 私も…きつと兄もビデオやカセットなんて使えませんし…お譲りします

アパ ありがとうございます！

佐野 もしかして、ここに(ラジカセ)入ってるのも？溶けてるけど

アパ あー、もったいない！

あけ トッポなんとかさんって、どんな芸人さんですか？父と芸人って、結びつかないですよ

葛西 アスパラ、でぎんじゃない

アパ え？そりゃ、何千回と見てるんです。物まねならできますよ

あけ …見てみたいです

アパ じゃあやってみましょうか？(思いついて)あ！さっきの服、お借りしていいですか？

あけ え？…はい、どうぞ

アスパラは部屋を飛び出していく。

葛西 さっきの服ってなに？

城戸 さあ…

あけ さっきの芸人さん、テレビにも出たりするんですか？

葛西 はい。ほんとたまに

あけ 私、一度だけラジオに出たことがあるんです。小学生のときに「私のお父さん」って作文で表彰されて。あの頃は父ともよく話してたんだ
ろうな…

アスパラは上半身にピチピチのセーラー服を着て飛び出してくる。

アパ どうもー、謝り続けて六十年。浅草に咲くペンペン草。トッポジョージーです！（お客にむかって）似合ってる？そう、ありがとう…

アスパラのネタが続く中、その言動や仕草が龍吉の行動と似ていることにあけみは気づく。

アパ（決め台詞で）いつも、いつも、ごめんなさい！

あけ お父さん…

全員 お父さん？

あけ あ…いえ…

葛西 お父さん…ですか？これが？

あけ …はい

江崎 服が同じだから？

あけ 服だけじゃなくて…

佐野 言葉？

あけ そうなんです

江崎 わけのわからないことを言ってたって…

あけ はい。いつも、いつも、ごめんなさい…駅前の噴水の前で。白い目で見られながら

江崎 見てらしたんですか

あけ …そりゃ…近所の人に言われたんで…気になって…

アパ あ…僕、続けたほうがええんですか？

あけ お願いします

あけみは真剣なまなざしでアスパラを見つめる。

アパ やりにくいな…(氣をとりなおして)えー、トツポジョージのいい話。先日…

アスパラのネタをあけみは食い入るように見ている。

アパ いつもいつも

あけ ありがとう…

全員 …

アパ も、もー。とらんといて下さいよ、そこが気持ちええんやないですか

葛西 バカ！あんたのことなんかどうでもいいのよ！

あけ いつもいつもごめんなさい。いつもいつもありがとう…セーラー服、看護師…

葛西 アスパラ！

アパ 全部師匠のパクリじゃないですか

あけ え…

江崎 …アスパラ！この写真って

アパ 浅草演芸ホールじゃないですか！え…もしかしてみんな知らないんですか？落語家さんとか、渋い芸人さんが集まる…

江崎 トツポジョージは？

アパ だからトツポジョージ師匠！そりゃ師匠も出てましたよ。みんないい笑顔だ

江崎 あけみさん…

あけ 父に、こんな趣味があつたなんて…

江崎 御存知なかった？

あけ (頷く)

江崎 どうだったんですか、お父さん。駅前で：こう、ものまね？してらした時は：

あけ どうって

江崎 輝いてた？

あけ そんなわけないでしょ

江崎 元気だったんじゃない？

あけ 覚えてません。すぐにその場を立ち去ったので

江崎 笑顔だったんじゃない？

佐野 江崎さん！

江崎 ：

あけ ：

江崎 すみません：でも私には：どうしても、龍吉さんがおかしくなっていたように思えないんです。部屋もそこまで汚れていませんし、このメモ書きも内容は一貫しています。おかしな行動も、トッポジョージさんに憧れていたんだとしたら、不思議ではありません

あけ おかしくなっていないなら、あの行為は、仕返しじゃないですか！兄の言う通り！

江崎 だからそれは憧れで

あけ 憧れでも、何が理由だったとしても、それが何を引き起こすかわかるでしょう！おかしくなっていないなら！恨んでたんですか？父は！私達を！

江崎 ：

あけ おかしくなっていたって言うて下さいよ！善悪とか何もわからないくらい、おかしくなっていたって：

江崎 どんな方だったんですか？龍吉さんは。あけみさんの中では

あけ 最低の父ですよ。自分勝手に暴力的で、くすりとも笑わなくて：お金にもだらしがなくて：でも私を育ててくれたんです。体一つで。体を張ることしかできないから、危険な仕事を繰り返して。怪我をしたら何の保証もない。だからストレスを抱えて：お酒を飲んで暴れて：最後はおかしくなって：私は、父を許したいから、何年もかけて、理由を作りだしてきたんです！それなのに！：いまさら：

江崎 ：龍吉さんの書いたメモです。読んで下さい

あけ いいです

江崎 どうぞ

あけ どうして？

江崎 もっと知って下さい。龍吉さんのことを

あけ いやです。これ以上、私の中の父を崩さないで下さい

佐野 じゃあどうして来たんですか？

あけ え？

佐野 来なければ、知らずにすんだんでしょ？来たってことは知りたかったんでしょ。お父さんのことを

あけ …

江崎 …

佐野 想像でどれだけ作り上げても、現実には勝てない。ここに、真実を探しにきたんでしょ？

あけ …

あけみは江崎の差し出したメモを手にする。

あけ 汚い字

江崎 …

あけ 学校のプリントとか、バイトの履歴書とか、こんな字でサイン書くんです。嫌だった…

佐野 …

あけ 正常みたいですネ

江崎 はい

あけ 読んで、どう思われました？

江崎 教養のある方だと思いました

あけ (笑う)意見があいせんね

江崎 龍吉さんは、許してほしかったんじゃないやありませんか？

佐野 (憤慨して)江崎さん

あけ …そんな想像もできますか

江崎 はい

あけ 他にそう思われるかた、いらっしゃいます？

城戸が手を挙げる。

あけ いいご家庭に生まれたんですね

城戸 そうかもしれません…

あけ …許してほしい、ってことは、父は悪かったと反省していた、ってことですか

城戸 はい

あけ じゃあ、あの奇行はどう説明されます？許しを求めている人間がさらに迷惑をかけている、気はふれていない、どうして？

江崎 …

葛西 龍吉さんは、その…気を配れる方でした？うちの父が…いや、私もですが、自分の思いが先にきちゃって、これが正しい、これをやりたいって思ったら周りが見えなくなるんです

あけ 少なくとも、気を配れるような人ではないです…

葛西 じゃあ、気がついてなかったんじゃないですか？その…道で変なことをするとあけみさん達に迷惑がかかるって…逆にもしかしたら、龍吉さんなりに、一緒に暮らしていたときは、気を使って、やめてたのかもしれないし

あけ …あの人ならあるかもしれませんね。そうか。私たちが出て行ったら、迷惑にはならないって思っていたのか…

江崎 …

あけ もう少し、生きてるときに話したかったな…

江崎 ええ…

あけ 兄がね、言うんですよ。あいつに俺は、おまえが生まれたから不幸になったんだって言われた。だから俺はあいつが死んだって許すものかって

佐野 …

あけ 殴られる回数も、程度も、私とは比較にならなかったし、言葉の暴力だって。でも、許さないって言ったって、何も生まれませんよね

葛西 …

あけ 私が会わせればよかったのかな…会えば、もしかしたら、許しあえたのかもしれない…

アパ …

あけ 父も、言いたい事があったかもしれませんよね。私達が全部知ったら、もしかしたら、わかりあえたのかも…

あけみはメモを見て、ふと手が止まる。

あけ これ、なんて書いてあるんですか？柿おとし？柿おとしは新たな出発。笑いは心の柿おとし…ジョージ
アパ ジョージ！もしかして、僕の知らない師匠の名言？

江崎 城戸、意味わかるか？

城戸 …ああ、カキじゃありません、柿落（こけらおと）しです。カキと違って縦線がつながってるでしょ

葛西 ほんとだ

あけ 柿おとしは新たな出発。笑いは心の柿おとし…どういう意味だろう？

城戸 劇場を作る時、最後に木のくずを舞台上から掃き落とすんですよ。その木のくずをこけら、行為を柿落しって言ったんです。新しい出発と
きには、笑って心を掃き清めないといけないっていう意味じゃないですかね

アパ さっすが、師匠、よくわからないけど、深い言葉ですね

江崎 あけみさん

あけ はい

江崎 一つ、お伝えしたいことがあります

あけ なんでしょう？

江崎 私達が判断に困るものが、一つ見つかりまして

葛西 江崎さん！

江崎 見てもらったほうがいい。全部知ってもらったほうがいい

葛西 でも、龍吉さんは

あけ なんですか？

江崎 遺言状が見つかったんです

あけ え？

江崎 そこに、少しショッキングなことが書いてありました。落ち着いて読んで下さい

あけ …はい

江崎は金庫を開けると、封筒をそのままあけみに渡す。

あけみは中の文章を真剣なまなざしで読み始める。

緊張の面持ちで江崎達が見つめる中、あけみは読み終える。

江崎 どう…でした？

あけ もう、笑うしかないですね

江崎 …

あけ なんですか、この「義弘やあけみに一億円は渡さない。すべて次女のよしみに与える」って

江崎 …

あけ 次女のよしみって誰？何歳のときの子供よ？給食代すら払えないときがあったのに、他に子供がいたって？

江崎 …

あけ しかも、義弘とあけみをたして、よしみって…単細胞
江崎 …

あけみは、江崎達をぐるりと見渡す。そして、嘔き出す。

あけ もしかして、信じてらっしゃるんですか？

江崎 え？

あけ こんな落書き、うそに決まってるじゃないですか

あけみは封筒を江崎に返す。

江崎 いや…でも、宝くじ

あけ 入ってたんですか？

江崎 え？あれ！

佐野 ないんですか？

アパ 宝くじってなんですか？なあ？

城戸 はい…なんのことですか？

アスパラと城戸は遺書の文面を読む。

江崎 葛西！

葛西 私、知りませんよ。さっき頂いた封筒をそのまま金庫に入れただけです。私じゃないです
江崎 なにお前じゃないんだ！

葛西 …

江崎 出せ、葛西

葛西 …

江崎 二回目は見逃せない。こないだの通帳も、お前だって見当はついてる

葛西は宝くじをポケットから取り出す。

江崎 なんでこんなことをしたんだ？

葛西 …龍吉さんが、渡すなって書いてる物を、渡すのが正しいとは思いません。こないだのおばあちゃんだってそうじゃありませんか？なんでみんな、写真とか思い出じゃなくて、通帳だとかお金だとか…

江崎 俺達の仕事は、残された御遺族に、残されたものをお渡しすることだ。そこにこめられた思いも！でもな、それはやっちゃいけないだろう！あけ いいですよ、私達は。父が、渡したくないって言うてる物を受け取りたくはありません

江崎 しかし…

あけ そもそも、その宝くじ、当たってるんですか？いつの宝くじです？（スマホを操作する）

葛西 こないだの、年末ジャンボ宝くじです

あけ 一億円ってことは、一等の前後賞ですか…この番号です？（スマホを見せる）

葛西 …全然違う

あけ そういうことです

江崎 …

あけ 父が…私達を恨んでいた、ということとはじゅうぶんわかりました

アパ …

あけ じゃあ、帰ります。兄には、来たとは言わないで下さい。あと、よろしく願います

江崎 あけみさん！この遺書は、ゴミの中から見つかったんです。だから、龍吉さんも書いてみて、やっぱり違うと思って捨てたのかもしれない

ん。それを私達が拾い出してしまったんです

あけ　もういいです

アパ　あの、僕、全く見当はずれかもしれませんが、言ってもいいですか？

江崎　黙ってろ

アパ　はい。って、なんでやねん！

江崎　：

アパ　いや、すみません。スベりましたけど…あけみさん

あけ　はい

アパ　笑ったらどうですか？

あけ　はい？

アパ　笑いは、心の柿落しですよ。こんなこと、僕が言ったらだめなのかもしれないけど。めっちゃくちゃ面白いですよ、龍吉さん。トツポジョー
ジ師匠が好きで、還暦すぎてからその物まねを初めて、この宝くじだって、プロのボケですよ

あけ　：

アパ　さっきあけみさん笑ってたじゃないですか！嘘だって言ってたじゃないですか！

あけ　：

アパ　師匠と知り合いだった人からのまた聞きなんですけど。師匠、戦争でご両親亡くしてて、本当にひどい所で育ったらしいです。蛍の墓みたいな感じかなって僕は勝手に思ってるんですけど。色んなところでいじめられたり、嫌味言われたりして、でも師匠、一度も言い返さなかったらしいです。言い返す代わりに全部、笑いで返したんです。どれだけスベっても、バカだと言われても、ひたすらボケ続けたんです。そしたらいつのまにか誰も怒らなくなったらいいんです。だから…僕は…龍吉さんも、同じだったんじゃないかなって思うんです。あけみさんとかお兄さんに悪い事を行ったのは十分わかっていたと思うんです。でも、不器用な人だから、謝れなくて、本人も困ってたんじゃないかなって。全部僕の想像です。でもこんな素敵なボケができる人が、悪い人だなんて思いたくないんです

あけ　無理ですよ…

アパ　最後、ちょっとだけ！見てって下さい！ショートコントやと思って！お願いします

あけ
：

アパ ショートコント、遺言状。おい、親父！なんだよ！（あけみに）あ、これお兄さんです

あけ
：

アパ 遺書書いたって？なんだよ、遺産なんてあるのかよ？

アスパラは遺書を手にする。

アパ はあ…一億円！一億って、ほんとかよ？おい、あけみ

葛西 （戸惑うが）…え、ええ？

アパ 親父の奴、一億、宝くじで当てたって…え、なに？誰だよ、よしみって。あ？そいつか（城戸を見る）？

城戸 えっ！…あ…はい…よしみです

アパ どういうことだよ、親父！俺に一億渡せないってどういうことだよ！

江崎 …そのまんまだよ。お前らに渡す金はない…

アパ あけみ！おやじ、一億当てたのにその女に全額やるって！お前もなんか言えよ！

葛西 （気にして）仕方ないわよ…私達が、お父さんから離れたんだから…

アパ 出てったのはこの親父のせいだろ！俺が全部悪いみたいに言いやがってよ！どこだよ、おやじ、俺に渡せよ！

江崎は黙って宝くじをアスパラに差し出す。アスパラは宝くじを奪うと得意げに見せびらかす。

アパ おい、あけみ、やったぞ！一億だ！一億！

江崎 義弘…

アパ なんだよ、親父

江崎 その宝くじ、外れですよー！この子も娘じゃありません！

アスパラは激しくずっこける。

江崎 いつも、いつも、ごめんなさい！

アパ なんだよ、それ…ふふふ、ははは、ははは！

アスパラの笑い声に江崎の笑い声が重なる。

江崎 どうだ、ひっかかったか

アパ ばっかじゃねえの？こんな嘘、ひっかかるわけねえだろ。乗ってやったんだよ

江崎 いつも、いつも、ありがとう

アパ いーかげんにしろよ、バカ親父

江崎 いつも、いつも、ありがとう…

アパ しつこいよ

江崎 いつも、いつも、ありがとう。わしの息子でいてくれて、ありがとう。わしの娘でいてくれて、ありがとう

アスパラと葛西は、あけみの顔を見る。

あけ ……今までのこと、謝るのが先でしょ？お父さん？

江崎 (ふざけて) いつも、いつも、ごめんなさい！

あけ ……バカ

あけみは少し笑う。

あけ こんな父だったら、私達、仲良く暮らせたかもしれませんね。夢を見させてくれて、ありがとうございました
江崎 これが真実じゃ、ダメなんですか？

あけ 他人は好きに言えますよ！自分のことじゃないんだから！でも家族は…あの人は家族なんだから！私は、何回も信じて、裏切られて

アパ じゃあ、これ、見て下さい！カセットとビデオ、ジョーじ師匠のネタ見たらわかることあるかもしれません。家族だからこそのわかる何かが、
あけみさんには見えるかもしれません

あけ いいです。どうせ見られませんか。ビデオも、カセットも

アパ じゃあ、うちにある機械、お貸しますから

あけ どうしてそこまでして

佐野 アスパラ、そのカセット、中身入ってるか？

アパ え？入ってるよ

佐野 じゃあここ(ラジカセ)に入ってるのは？

アパ あ…ほんとうだ

アスパラはケースを確認するとラジカセを覗き込む。

アパ 私のお父さん…？

あけ え…？

アパ 書いてますよね？私のお父さん、って龍吉さんの字で

あけ はい…

江崎 わかるんですか？

あけ 私が、作文で賞をもらったときのタイトルです。これ、ラジオに出たときの録音だ。絶対そうです…どうしてここに

佐野 最初に見たときスイッチが入ってました。火事の時にも聞いてたんだと思います

あけ どうして聞いてたんですか？偶然？それとも毎晩？

江崎 …

あけ そんなこと書いたんだろう…ほとんど覚えてない…お父さんを尊敬してます、みたいな内容だったかな…お父さん…寂しかったの？本当は謝りたかったの？

全員 …

あけ ビデオとカセット、貸して頂けますか？なるべく早く、お返ししますから

アパ いえ、いつまでも持っていて下さい。あるべき場所にお渡ししていくのが僕たちの仕事ですから

あけ ありがとうございます

アパ 見る機械が手に入らなかったらお貸ししますんで。言ってくださいね

アスパラはあけみにカセットとビデオを手渡す。

あけ ありがとうございます。このラジカセも、捨てられちゃうんですか？

江崎 お兄さんが不要なおっしゃったら

あけ じゃあ、持って帰ります…邪魔しました

あけみは部屋を出て行く。

江崎 龍吉さん、よろこんでくれたのかな？

全員 …

城戸 よろこんでると思います

江崎 まったく、お前は育ちがいいねえ(笑う)

葛西 江崎さん…

江崎 手癖の悪い部下を持って、俺は不幸だよ。しかも持って行くのはゴミばかり
葛西 すみません

アパ 葛西さん、スマイルですよ、スマイル

葛西 ……

江崎 そうだ、この仕事が終わるまでは笑っとけ。命令だ

葛西 ……

江崎 (笑って) 龍吉さんをこれ以上すべらすわけにはいかないだろう？ 宝くじ一枚買って、封筒につめて遺書を書いて死ぬ… 一世一代の大ボケがすべったんだ。このままじゃ寂しすぎるだろ。だからさ、俺らは笑ってあげようじゃないか。笑顔で送り出してやろうじゃないか！

城戸 はい！

江崎 じゃあ、全員で衣装にとっかかるか！

江崎は立ち上がって部屋を出て行く。佐野以外の全員があとに続く。外から笑い声が聞こえる。

佐野 ただの自己満足…

間

佐野はパラパラとアルバムを見る。

佐野 親、か…

佐野はふと顔をあげるが、すぐにハッとして部屋を出て行く。

『わたしのおとうさん』の音声が流れる。

